

政治研究会ノ演説会ノトキ配布シラセ

關東地方評議會の除名處分 と關東勞働同盟會の態度

我が國に日本共産黨なる秘密結社があるか否かは、知る限りではないが、一般に日本共産黨と呼ぶる、一個の黨派の勢力の存在することは事實であつて、此の勢力は各方面に魔の手を延ばし我が勞働總同盟にも此れに屬し、若しくは之れと通謀する一派が存在し、常に總同盟内部の陣容を擾亂し、紛擾の種子を蒔き來つたものであつた。左に彼等一派の性質とその行動を述べるなれば、

第一、彼等は總同盟内に黨中黨を作り、組合外部の日本共産黨系の勢力と策應して總同盟を日本共産黨の支配下に置かんとする陰謀を企み、

第二、彼等は此の目的の爲めには、何等手段を選ばず、陰險毒辣な方法を以つて、彼等の黨派に屬せざる同志の中傷、譏誣、排斥を行ひ、そして自派勢力の擴張を圖り、階級道徳も組合の信義も蹂躪して顧みない。忌まはしき組合内部の紛擾は此所から生じて居る。

第三、彼等の運動方針は、狂燥な病的な革命思想に犯されて居つて、總同盟の着實な現實政策を嫌つて、空漠なる小兒病的氣分運動を好み、口には大衆化を唱へながら、常に大衆から孤立した自己満足の運動を行ひ、また一般組合をも大衆から孤立せしむる結果を生みつゝある。

彼等は口を開けば、「自分達は共產主義者であつて、君達は改良主義者だ、自分達は第三インタナショナルであつて、君達は第二インタナショナルだ」と得意然として云ふ。我等は、此の問題の最初から、共產主義が良いか悪いか、何れのインタナショナルに屬すべきか等のことは、何等問題にして居ない。我等は唯だ我國現下の勞働運動を現實に導き、勞働組合の基礎を充實するの上から、今日まで我國勞働運動の上には幾多の害毒を流して來た日本共産黨一派に屬し又は之に通謀する關東地方評議會を糺弾して之を總同盟の圏外に驅逐したことを喜ぶ者である。之れ獨り總同盟の爲めのみならず、廣く我國勞働運動の發達に幸ずることを確信する。

我等は飽くまで勞働總同盟の宣言綱領の精神を奉じ、我國社會の現實に立脚して、勇敢に健實に、所信に向つて邁進せんとする者である。一般勞働者諸君よ、願くば我等の運動精神を諒解し、來つて我等の戦線に加はられんことを。

勞働組合の擾亂者を排撃せよ！

陰謀と朋黨精神とを組合より驅逐せよ！
勞働組合の大衆化の爲めに！

大正十四年四月十九日

日本勞働總同盟

關東勞働同盟會

14.4.20
第809号